



荒島岳稜線



荒島岳



もちが壁

山 域：荒島岳・銀杏峰

場 所：岐阜県

日 時：2005/03/19-21

天 候：晴れ

メンバー：石野・大塚・木倉・大本・恵

好天气に恵まれた3連休・・・昨年も楽しませてもらった銀杏峰へ、そして新たな荒島岳と足を運んだ。

今回は銀杏峰下のいこいの森の「へんくつ小屋」の主人の小屋に泊めてもらう事になっているのでオートキャンプさながらの荷物である。



銀杏峰稜線



へんくつ小屋



急滑降の古葉谷



クリスタルのブナ林



左から前/中/荒島岳



前荒島への急登

3/19 荒島岳 快晴

初日は100名山の荒島岳に向かった。すでにクローズしている勝原(カドハラ)スキー場からゲレンデをシールでサクサクと登って行く。ガスっていなければ地図などいならいくらいに南の稜線につけば簡単なルートである。また100名山とあって壺足のあとだらけである。幸いにも昨夜降った雪でカチカチの壺足跡もほとんど消されていてスキーヤーにはうれしい稜線である。

稜線をほどなく進んで行くと1015mピークの深谷の頭に着く。ここが少しだけ広い雪原になっていてガスられると迷いそうな所である。南南西方面に進んで行けば再び稜線に取り付ける。そのまま稜線を進んで行けばしゃくなげ平1204mに着くのだが、地図を見れば1150mくらいからトラバースをすると、もちが壁直下のコルに辿り着くので行動することにするが、この辺りから昨夜の冷え込みと強風のためにブナの疎林にはものすごい霧氷がこびりついている。全ての木々がク



橋架谷



荒島岳から小なべ 1410 mへ滑降



もちが壁下降



小なべを登り返し

リスタル化しているようで、朝日に照らし出されてキラキラ輝きなんととも言えないご褒美である。写真やビデオをまわすのが必死で全くに前進まない。

もちが壁直下からはアイゼンに変更してピックストックを氷化した雪面にぶち込み直登していく。先行者の登山者はピッケルは持っているもののアイゼンが無いので立ち往生していた。しかしこの氷化した急斜面を帰りはスキーで下るのは不安になってくる(-\_-;)。

もちが壁を抜けると素晴らしい視界が飛び込んでくる。先月に縦走した石徹白の山々や大長山、赤兎山、取立山、別山、白山と全ての山々が真っ白いペールに包まれて雄大に連なっている。

荒島岳は前荒島、中荒島、荒島と三つの小ピークでなっていて、その東に連なるピークは大なべ1470m、小なべ1410mとなっているがその稜線の両側は急峻な勾配をしていて落ちれば谷底へまっしぐらである。情報によるとその北の谷の橋架谷の右俣や左俣と滑っているが、どちらもデブっているではないか！。地元の山スキーヤーはこの山域は2月



白山



荒島岳稜線

のパウダー狙いで滑っているようである。

山頂に辿り着く頃は快晴ではあるが強風でジッとしていられないほど寒さである。山頂にある祠もエビの尻尾が張り付いて屋根だけが見えていてとても寒そうである。無事下山を祈願する。このままピストンで降りるものもったいないので、小なべまで板を走らすがこれまた氷化した雪面にエッジの金属音が山頂にこだましてうなっていた。小なべピークから北に延びる小なべ尾根に快適にターンを切ってブナ林まで滑り込んで昼食タイムとする(^.^)。



山頂の祠

登り返してからは、いよいよ前荒島からのもちが壁への滑降だが、無難に横滑りして事なきを終える。もちが壁直下からは橋架谷右俣を1050mラインくらいまで下り深谷の頭手前に登り返す。そのあとは稜線通しに滑降してスキー場に辿り着く。

時間も16時を回っているので早々にいこいの村のへんくつ小屋へ移動する。小屋では主人が待っていてくれていて新築ログハウスを開放してもらおう。至れり尽くせりの小屋で寒い思いをしなくて快適快眠であった。



志目木谷東尾根最後の急登



銀杏峰稜線の雪原地帯



山頂で昼食タイム

### 3/20 銀杏峰（志目木谷東尾根） 晴れ

昨夜は杉林に囲まれたふもとの小屋なので巨大杉のカーテンでダイヤモンドを散りばめた星空は拝めなかったが、ぐっすりと眠ることができた。

7時過ぎに水車小屋まで移動して昨年とは違ったコース（志目木谷東尾根）から銀杏峰を目指した。

志目木谷を右に見ながら程なく林道を進んで600m地点辺りで急な尾根に取り付くと稜線に出る。その稜線を南に上り詰めると997mピークに着く。この稜線は杉林をポールに見たたてで滑降するには十分に勾配も申し分なしで雪質も上々である。997mからは再び登りが続き1250mで銀杏峰の稜線に辿り着く。そこは巨大な雪原と化している。こんなところでガスされるとまったくに身動きが取れないだろう。ここには、かつて昔一人の住人が開墾して池塘を利用して薬草を作ってこの山頂に小屋を建てて住んでいたと、へんくつ小屋主人が言っていた。昔の人はすごい人がどこにでもいたもんだと感心させられる。

雪原から銀杏峰稜線は南側にもものすごい雪屁が張り出していて見る者を圧倒させられる。今日の滑降予定の志目木谷を見るがやはり下のほうにはデブリが見える。小屋主人は今年はデブリが早くて地元ス

キーヤーは谷の滑降は敬遠しているようだの事であったがその通りであろう。

山頂で昼食タイムを済ませて色々意見交換をするが、主人の意見を無視して結果的に昨年滑降した古葉谷を滑ろうとなったが、これがやはり間違いの源で散々な目にあってしまった。

まずとっぱなから私がエッジを滑らしアッと言う間に出だしから滑落、体制を取り直し両手で雪面にピックストックをぶち込んで止まったが15mは落ちていた。そこを抜け出すと今度はいきなりのデブリ軍団、なんとか避けながらターンを切っていくが小さな突飛に当たればエッジが跳ね返されて転倒必死である。ここで恵が持病の膝を痛めてしまいテーピングを施したりしながらなんとか励まして無事に小屋まで辿り着くしまつであった。あの気丈な恵が「動けな〜い」と言ったのには焦った。3人の板をストックと細引きでくくりザックをクッション代わりにして恵を乗せて、前と後でザイルで確保しながらの下山を想定してしまった。私も昨日今日とグレンデ靴で試みていたので慣れないシール登行に両足に500円玉くらいの肉刺を4つも作ってしまい歩くのもままならないくらいに痛いしまつであった。やはり主人の意見を無視した天罰が下ったのだろう。



デブリ



負傷



徒渉

しかし下山してまだ時間もあるので大野市の温泉に浸かり疲れを癒しに行く。帰ってくると優しい主人はポタンナベを炊いてくれていてご馳走にあやかって、痛みも柔らかいだろう。この日の夜は雷伴う雨がシトシトと降っていた・・・しかし銀杏峰を愛する会の方々はそんな事はモノともせず雪洞を掘って山頂に泊まっていると主人に聞いたのは驚きであった。・・・以外にも天気予報は明日は快晴であった。

**3/21 銀杏峰(ログハウス尾根) - 帰姫 快晴**

予報通りに快晴で、この3連休でもっとも晴れ渡って雲一つないドピーカンである。

しかし私と恵は足の痛みで今日は留守番である。彼らを小屋から6時半に送り出したあと9時まで再びにシュラフに潜り込んでいた。小屋内を片づけて主人にお礼を告げて、時間もあるので宝慶寺へ向かった。ここも昨年の水害で相当にやられたようで改築中だった。ここから見る銀杏峰は古葉谷、志目木谷、そして昨日登った志目木谷東尾根・・・彼らが滑ってくるコースがすべて見渡せる。

11時前、そろそろ志目木谷東尾根から降りてくる時間だろうと水車小屋に移動する。待っていると昨夜から泊まっていた銀杏峰を愛する

会の4人パーティーがでかいザックを担いで下山してきた。彼らはへんくつ小屋主人の仲間で銀杏峰の登山道整備などのボランティアをしていて、こよなく銀杏峰を親しむ人達である(深謝)。昨夜は雷の猛吹雪だったそうである。 **銀杏峰を愛する会HP** <http://www11.plala.or.jp/genanpo/>

12時、やっと3人が降りてきた。山頂からの尾根を一本滑っていたそうで遅くなったようである。どうもお疲れさまでした。

帰りは3連休最後でもあるので早々に帰宅することにした・・・そのおかげでなんとか明るいうちに帰姫できた。

PS.

この3連休は2月の3連休ともども好天に恵まれて思い出深い山行が出来たのだが、どうも物足りない感じがしてならない。故障して一日棒にふったせいもあるのだがそれだけはない気がする。やはり3連休ともなると重荷のザックが肩にくい込むほどの疲労感と脱力感が充実感に変わる・・・そんな味わいが無かったせいもあるのだろうか。

**なんと言ってもへんくつ小屋主人に感謝!、そして銀杏峰を愛する会の方々に感謝!**